

- 市では、「大崎市新型インフルエンザ等対策行動計画」の改定を進めています。皆さんからの意見を募集します。
- 計画の公表方法
- 市ウェブサイトで閲覧
 - 窓口での閲覧
 - 市情報センター（市役所本庁舎1階）
 - 市情報コーナー（各総合支所地域振興課内）
 - 健康推進課（市役所本庁舎1階）
- ▼対象
- 市民または市内に通勤・通学している人、市内に事業所を有する個人または法人
- 意見の提出期間
- 1月9日（金）～29日（木）
- 意見の書き方
- 次の内容を明記してください。また、匿名の問い合わせや電話での意見には応じられません。
- 計画（中間案）に対する意見
 - 氏名または事業所名称
 - 住所または事業所所在地
 - 連絡先（電話番号・Eメールアドレス）

- 提出方法
- 持参の場合
月～金曜日（祝日を除く） 8時30分～17時15分
健康推進課または各総合支所市民福祉課に持参
 - 郵送の場合
〒989-6188
古川七日町1番1号
健康推進課に郵送（1月29日（木）消印有効）
 - ファックスの場合
健康推進課に送信
 - Eメールの場合
件名を「大崎市新型インフルエンザ等対策行動計画【改定版】（中間案）への意見」とし、健康推進課(kenko@city.osaki.miyagi.jp)へ送信
 - 応募フォームの場合
二次元コードを読み取り、市ウェブサイトで意見を入力
※応募フォームの開設期間は、意見の提出期間と同様です。



- 令和7年4月から始まった帯状疱疹の定期予防接種に今年度該当している人は、年度末を過ぎると全額自己負担になります。接種希望者は、受け忘れないよう注意してください。詳しくは、市ウェブサイトを確認してください。
- ※令和8年度該当者は、3月中に別途通知します。
- 接種期間
- 3月31日（火）まで
- 対象者
- 令和7年度に65歳・70歳・75歳・80歳・85歳・90歳・95歳・100歳を迎える人（年度基準）
 - 100歳以上の人（令和7年度限定）
 - 60歳以上65歳未満でヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な人（誕生日基準）
- 持ち物
- 住所・年齢が分かる本人確認書類（マイナンバーカード、運転免許証など）、生活保護受給者は受給者証

■定期予防接種の各ワクチンの特徴

	生ワクチン	組み換えワクチン
料金	4,000円×1回	11,000円×2回
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 皮下注射を1回 効果の持続期間は5～7年 免疫抑制状態の人、輸血やガンマグロブリン製剤の投与を受けて3カ月（大量療法は6カ月）を経過していない人は接種不可 	<ul style="list-style-type: none"> 筋肉注射を2回 効果の持続期間は10年以上 2カ月の間隔を置いて2回接種する必要がある

※生活保護受給者は無料です。
※組み換えワクチンの接種希望者は、1回目と2回目の間隔を2カ月以上空ける必要があるため、定期接種期間内に受けた場合は、1回目の接種を1月中に終える必要があります。



■申込方法

市指定医療機関へ直接予約
※市外で接種を希望する場合は、あらかじめ健康推進課に連絡してください。

大崎市新型インフルエンザ等対策行動計画【改定版】（中間案）への意見を募集します

問 健康推進課保健・地域医療担当 ☎ 22215 FAX 29880



水辺の自然再生共同シンポジウムを開催しました

令和7年11月22日、「2025年度水辺の自然再生共同シンポジウム」を開催しました。

このシンポジウムは、市と県内外の複数の自然保護団体で構成される「水辺の自然再生共同シンポジウム実行委員会」が主催し、今回で21回目となります。

当日は約50人が参加し、地球温暖化による水生生物への影響やアメリカザリガニなどの特定外来生物の防除方法について知見を深めました。また、NPO法人シナイモツゴ郷の会理事長の高橋 清孝氏は、令和7年9月に市の天然記念物に指定されたゼニタナゴやシナイモツゴ生息地の保全について「地域ぐるみの取り組みをさらに強化し拡大しながら、郷土の豊かな自然を守っていきたい」と強い意欲を示しました。

市では、今後も関係団体と協力し、水辺の自然環境の保全に取り組んでいきます。



▲長年にわたりシナイモツゴやゼニタナゴの保全に携わる高橋 清孝氏

おおさきオープンイノベーションピッチ2025を開催しました

令和7年11月27日、「おおさきオープンイノベーションピッチ2025」を開催しました。

このイベントは、本市の観光・産業資源と協業する提案や行政施策に対する提案を競うビジネスプランコンテストです。2回目となる今年は海外を含む77社から応募がありました。

当日は、事前審査を通過したファイナリスト10社が個性的なビジネスプランを発表し、最終審査を行いました。審査の結果、鳴子こけしや鳴子漆器などで創造された和室空間を海外に輸出する事業を提案したOmiisay株式会社が最優秀賞に選ばれました。

本市は、イベントを契機に新たな事業展開が図られることを期待し、地域産業のさらなる発展に取り組めます。



▲革新的なアイデアで大崎の未来を創ります

多国の文化に触れ、交流を深めました

令和7年11月30日、「第1回おおさき多文化共生フェスティバル」を開催しました。

初開催となる今回は、インドネシアの伝統舞踊、モンゴルの伝統楽器・馬頭琴の演奏、民族衣装の紹介、市内4校の高校生による多文化共生の取り組みの発表、おおさき日本語学校の留学生による母国の歌の披露など、多彩なプログラムがありました。来場者は各国・地域の特色ある文化に目を輝かせて興味深く話を聞き、交流を深めていました。

このイベントを通して、文化や言語などの多様性を「違い」ではなく「力」や「宝」として捉え、互いを知り、尊重し合う多文化共生のまちづくりへの一歩を踏み出すきっかけとなりました。



▲インドネシアのゲーム「チョンクラック」で交流を深める留学生と来場者